

チェック!

畜舎の衛生管理を見直す ふきとり検査の活用



今回のテーマは
畜舎衛生管理の
確認方法
についてです。

皆さまが家畜をアウトした後や、日常行っている洗浄・消毒は、きちんと機能しているでしょうか？

洗浄・消毒後に汚れが残っていないかを、目で見て状態を確認することが大切ですが、ふきとり検査を定期的
に活用して汚れの残り具合を数値として確認すれば、どこに問題点があるか明確になり、対応策を検討しやすくなります。

ふきとり検査は、食品加工施設や卵の集荷・選別をするGPセンターなどで日常の清掃・消毒に問題がないかを確認するために実施されることが多いのですが、畜舎でも活用することができます。

今回は、ある牛農家で子牛の哺乳用ミルクの調整に使用している器具や器材の洗浄・消毒効果について、ふきとり検査を活用した例を、具体的にご紹介します。

●洗浄・消毒効果を数値化して汚れがちな場所を把握

調乳室内で、ふきとる場所（ニップルや攪拌機など）・ふきとるタイミング（洗浄前・洗浄後・朝一番の時間など）を定め、市販のふきとり検査用スワブを使って一定の面積（10cm×10cmやニップル5個など）でふきとり検査を行いました。（写真1、2）

ふきとった後は冷蔵で保管し、検査を行います。今回は、清浄度の指標となる一般生菌数を検査したところ、多くのふきとり場所で高い菌数が確認されました。そのため、汚れが残っているところはないか、使用している

消毒剤に効果があるのかなどを検証し、洗浄・消毒方法を見直しました。

また、改善した結果を確認するため、前回と同じ場所・タイミング・面積で再検査を実施しました。その結果、下記の表のように2回目の検査では一般生菌数が顕著に減少し、期間を開けて3回目の検査を実施したところ、一般生菌が検出されなくなりました。

表:ある牛農家での調乳室内器材の消毒後の一般生菌数(単位:個/cm)

検査場所	1回目	2回目	3回目
ニップル(乳首)	350	2	検出されず
哺乳瓶の中	140,000	4	検出されず
洗浄ブラシ	260	検出されず	検出されず
攪拌機	1,700	検出されず	検出されず

●改善を確認するため、検査は数回行う

このように、器具・器材の汚れ具合を数値で知ることによって、汚れが残っている部分の確認ができ、改善すべき場所が判明します。ふきとる場所は、目で見てきれいだっ場所や汚れが残りやすい場所など複数の場所
で実施するのがいいでしょう。

改善した結果を確認するために、検査は一回だけではなく、定期的に同じ器具・器材について行うことが大切です。洗浄・消毒の結果が数値として表れるため、日頃の衛生管理にやりがいが出てくるようです。

また、検査項目は、清浄度の指標となる一般生菌数や、ふん便などの汚染指標となる大腸菌群数などのほか、サルモネラや*クロストリジウムなど、特定の細菌がいるかどうかの検査も可能です。

クリニックセンター（ジューアの検査室）でもふきとり検査を実施しておりますので、ぜひ畜舎の洗浄・消毒の確認としてご活用ください。



写真1：ふきとり検査用スワブ



写真2：ふきとり検査の様子(ニップル)